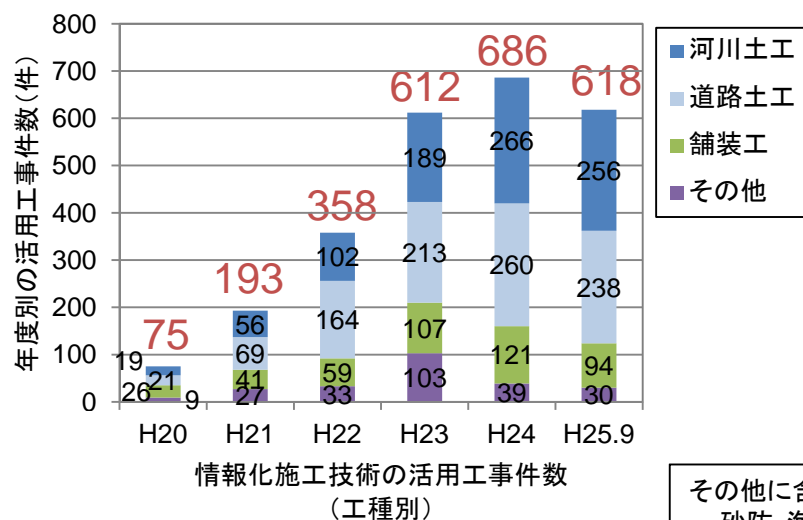


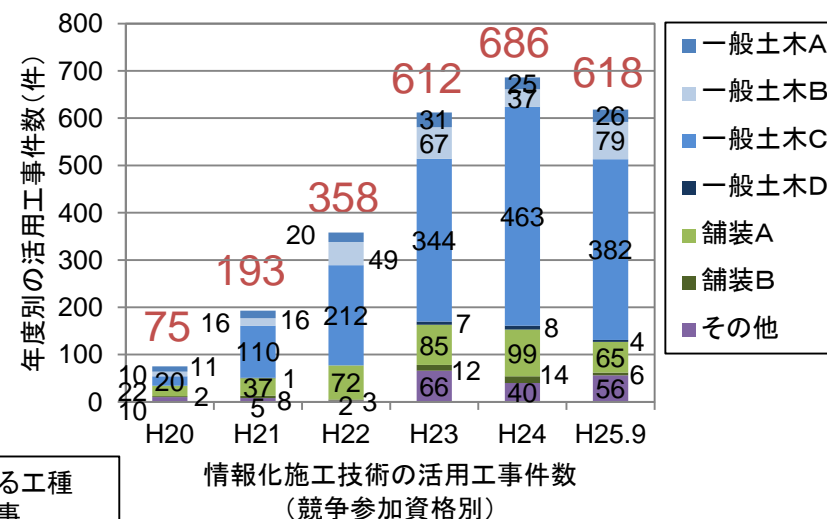
これまでの取組状況

1.1 情報化施工技術の活用工事件数

- 平成25年度の情報化施工技術の活用工事件数は、**618件**となっている。情報化施工技術の活用工事件数の工種内訳は、**土工(河川土工、道路土工)**は494件となり、**舗装工(路盤工)**は94件となっている。
- 平成25年度の競争参加資格別の活用工事件数は、**一般土木C・Dが約6割(618件のうち386件)**を占めている。



その他に含まれる工種
 ・砂防・海岸工事
 ・造成工事
 ・造園 等

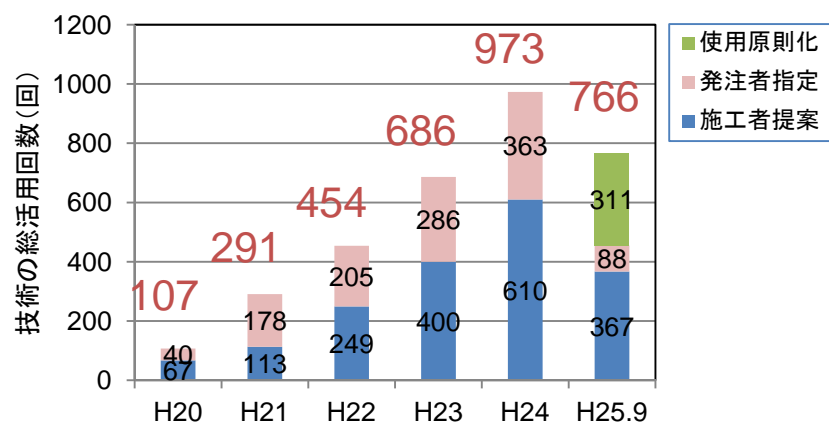


(H25.9月末現在)

情報化施工技術の活用工事件数(契約年度別)

1.2 情報化施工技術の総活用回数

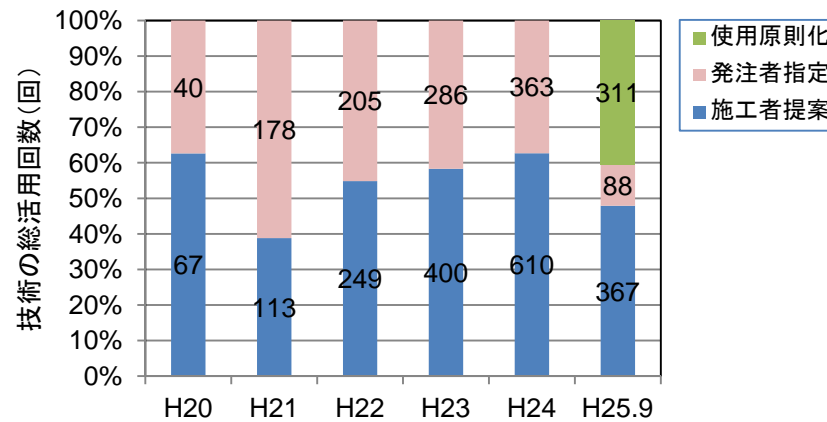
- 平成25年度の情報化施工技術の総活用回数は、**766回**となっている。**発注者指定型の活用回数は399回、施工者希望型の活用回数は367回**となっている。発注者指定型のうち、**使用原則化となったTS出来形(10,000m3以上の土工)の活用回数が311回**となっている。
- 平成25年度の発注者指定型、施工者希望型の割合は、**発注者指定型が約5割(766回のうち399回)、施工者希望型が約5割(766回のうち367回)**を占めている。発注者指定型のうち、**使用原則化となったTS出来形(10,000m3以上の土工)の割合は約8割(399回のうち311回)**を占めている。



情報化施工技術の総活用回数
(発注者指定型、施工者希望型及び仕様原則化の割合)

※使用原則化の対象はTS出来形(10,000m3以上の土工)

(H25.9月末現在)



情報化施工技術の総活用回数
(発注者指定型、施工者希望型及び仕様原則化の割合)

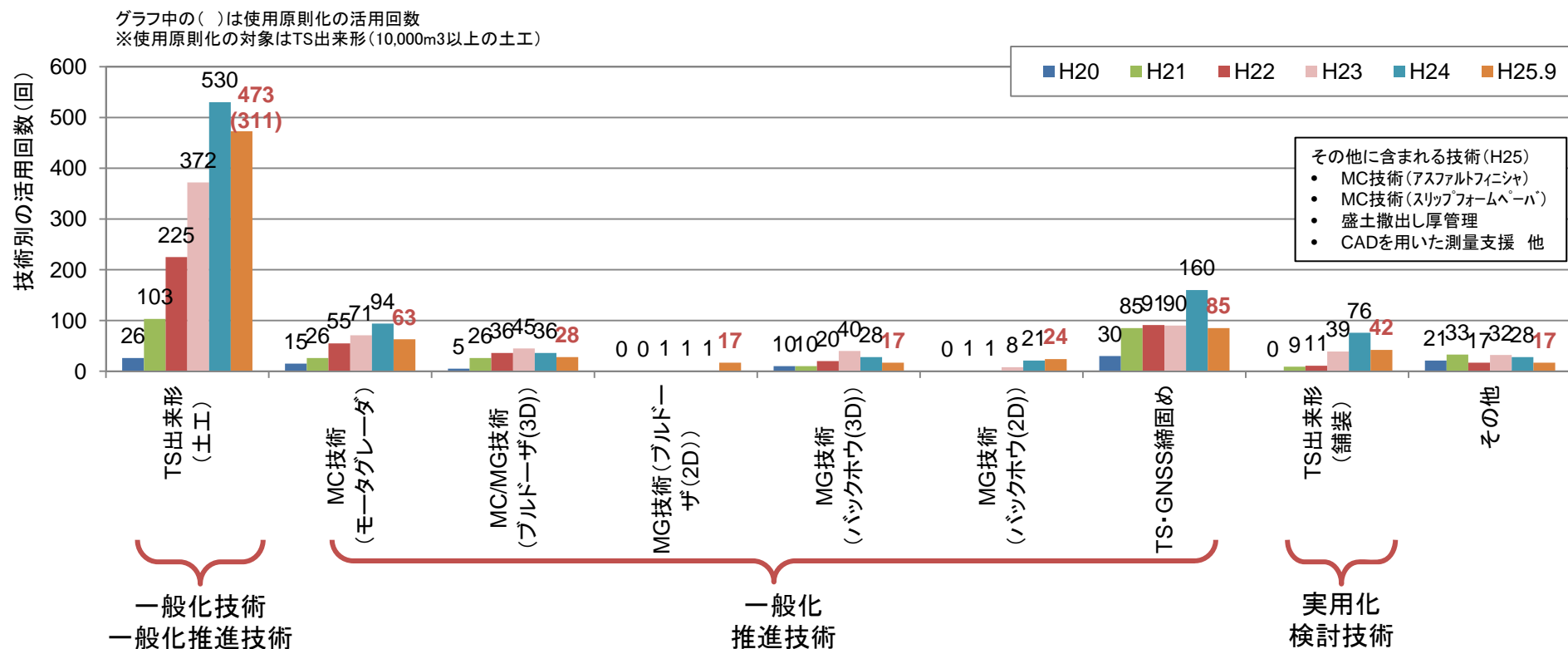
※使用原則化の対象はTS出来形(10,000m3以上の土工)

(H25.9月末現在)

情報化施工技術の総活用回数(契約年度別)

1.3 情報化施工技術の総活用回数(技術別)

- 平成25年度の情報化施工技術別の活用回数は、TS出来形が473回となっている。TS出来形のうち、使用原則化となったTS出来形(10,000m³以上の土工)の活用回数は311回となっている。
- 一般化推進技術については、MC技術(モータグレーダ)が63回、MC/MG技術(ブルドーザ(3D))が28回、MG技術(ブルドーザ(2D))が17回、MG技術(バックホウ(3D))が17回、MG技術(バックホウ(2D))が24回、TS・GNSS締固めが85回となっている。
- 実用化検討技術については、TS出来形(舗装)が42回となっている。

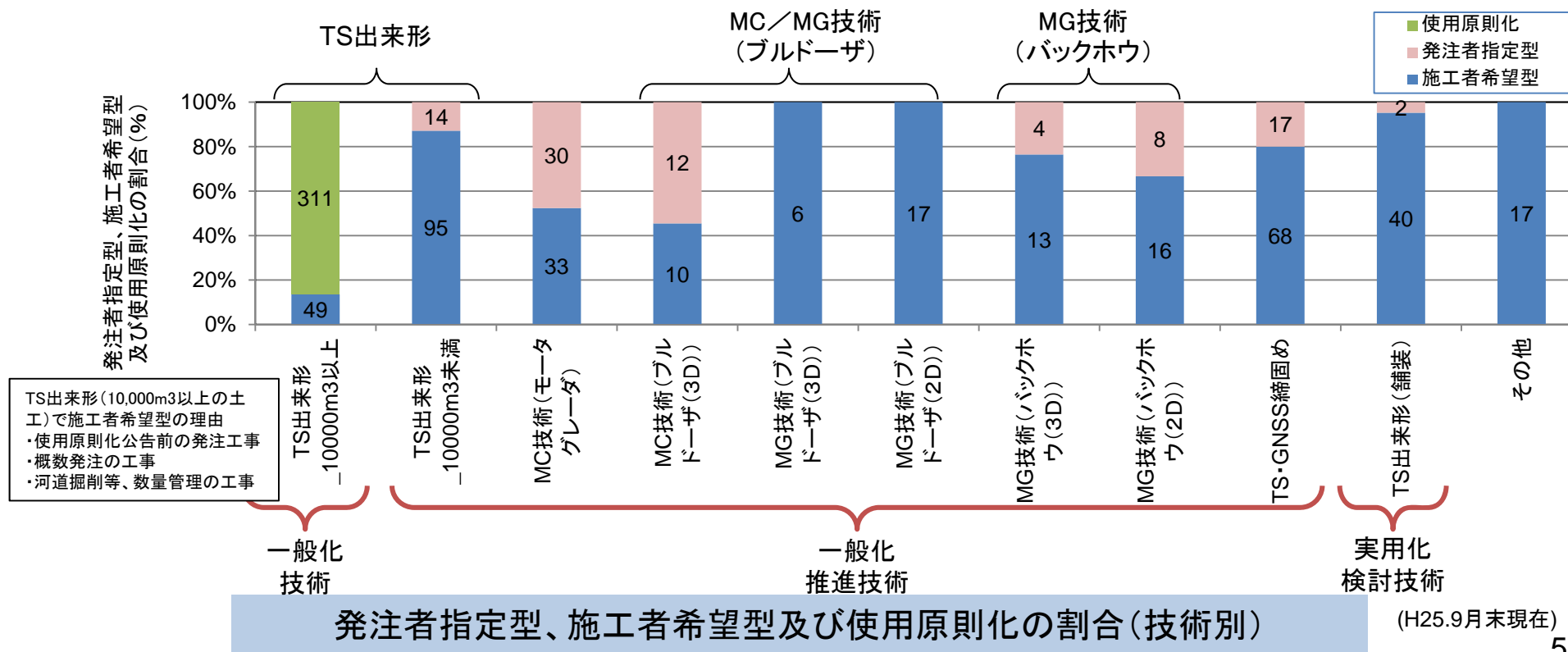


情報化施工技術の活用回数(技術別)

(H25.9月末現在)

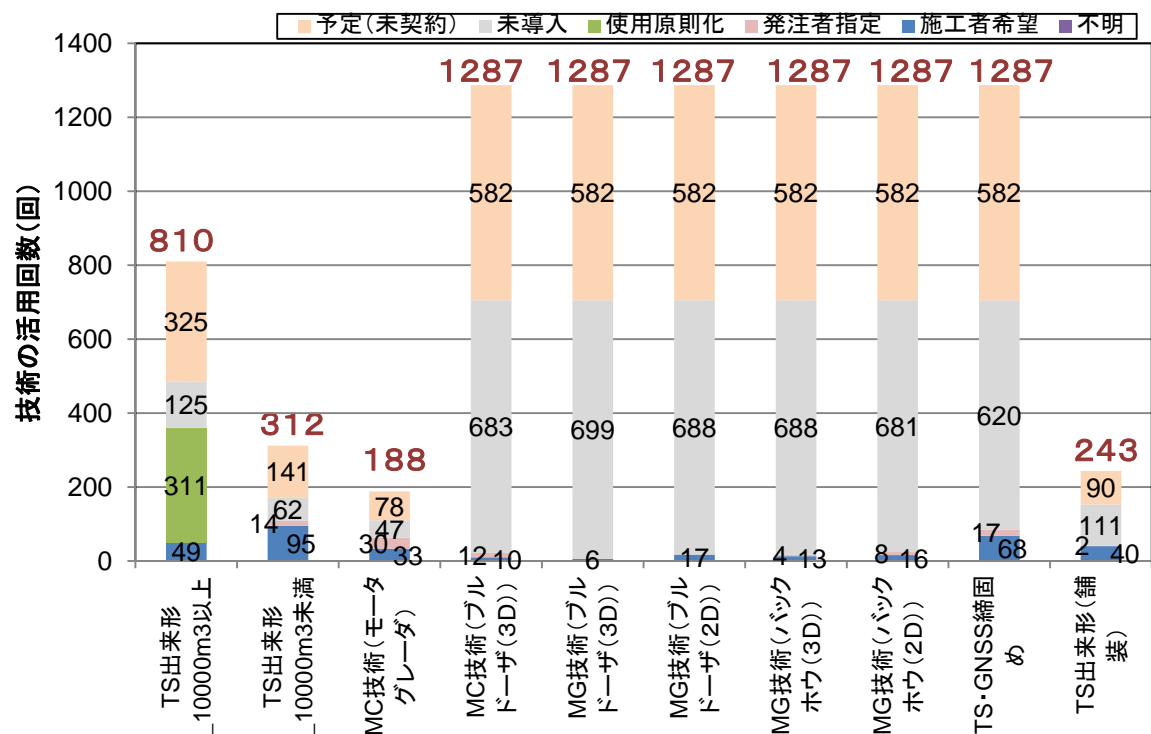
1.5 発注者指定型と施工者希望型の割合(技術別)

- 平成25年度の発注者指定型、施工者希望型及び使用原則化の割合をみると、一般化技術については、TS出来形(10,000m³以上の土工)では、使用原則化が約9割(360回のうち311回)を占めている。
- 一般化推進技術については、TS出来形(10,000m³未満の土工)では、施工者希望型が約9割(109回のうち95回)、MC技術(モータグレーダ)では施工者希望型が約5割(63回のうち33回)、MC/MG技術(ブルドーザ)では施工者希望型が約7割(45回のうち33回)、MG技術(バックホウ)では施工者希望型が約7割(41回のうち29回)、TS・GNSS締固めでは施工者希望型が約8割(85回のうち68回)を占めている。
- 実用化検討技術については、TS出来形(舗装)では施工者希望型が約9割(42回のうち40回)を占めている。



1.6 工事契約状況(技術別)

- 平成25年度の情報化施工技術が対象となる工事の件数について、発注済工事と全ての工事(発注予定を含む)を比較すると、**使用原則化となったTS出来形(10,000m³以上の土工)は、810件中485件が発注済工事となっている。**
- 一般化推進技術については、**TS出来形(10,000m³未満の土工)では、312件中171件、MC技術(モータグレーダ)では、188件中110件、MC/MG技術(ブルドーザ)では1287件中705件、MG技術(バックホウ)では1287件中705件、TS・GNSS締固めでは1287件中705件が発注済工事となっている。**
- 実用化検討技術については、**TS出来形(舗装)では、243件中153件が発注済工事となっている。**



【対象工事】

- ・TS出来形_10000m³以上
=切土盛土を含む10000m³以上の土工事
※法面整形工、浚渫工は除く
- ・TS出来形_10000m³未満
=切土盛土を含む10000m³未満の土工事
※法面整形工、浚渫工は除く
- ・MC技術(モータグレーダ)
=舗装工事のうち路盤工
- ・MC技術(ブルドーザ(3D))、MG技術(ブルドーザ(3D))
MG技術(ブルドーザ(2D))、MG技術(バックホウ(3D))
MG技術(バックホウ(2D))、TS・GNSS締固め
=切土盛土を含むすべての土工事
- ・TS出来形(舗装)
=舗装工、路盤工を含む舗装工事

(H25.9月末現在)

1.7 情報化施工技術の活用率(技術別)

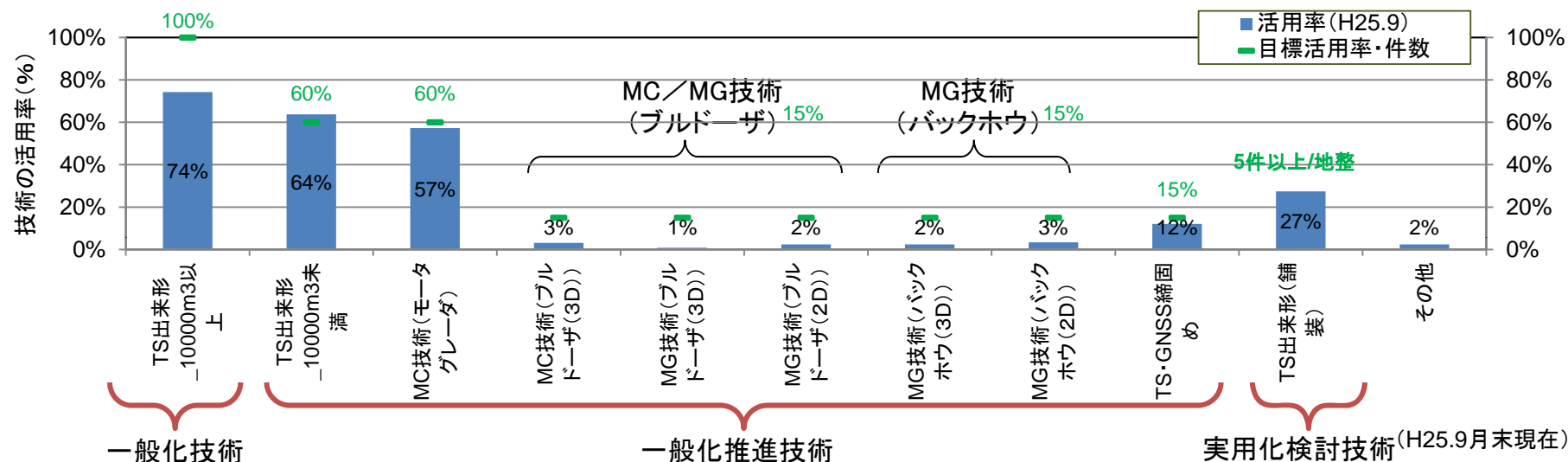
- 平成25年度の発注済工事に対する情報化施工技術の活用率をみると、一般化技術については、**TS出来形(10,000m³以上の土工)**が**74%**の活用率となっている。
- 一般化推進技術については、**TS出来形(10,000m³未満の土工)**が**64%**、**MC技術(モータグレーダ)**が**57%**、**MC/MG技術(ブルドーザ)**が**2%**、**MG技術(バックホウ)**が**3%**、**TS・GNSS締固め**が**12%**となっている。
- 実用化検討技術については、**TS出来形(舗装)**が**27%**となっている。

	導入済み 工事件数	発注済 工事件数	活用率(発注済のみ) H25.9現在	目標活用率・ 目標件数	予定含む 工事件数	備考
TS出来形(土工)10,000m ³ 以上	360	485	74%	100%	810	土工に対する活用率
TS出来形(土工)10,000m ³ 未満	109	171	64%	60%	312	土工に対する活用率
MC技術(モータグレーダ)	63	110	57%	60%	188	路盤工に対する活用率
MC技術(ブルドーザ(3D))	22	705	3%	15%	1287	土工に対する活用率
MG技術(ブルドーザ(3D))	6	705	1%			
MG技術(ブルドーザ(2D))	17	705	2%	15%	1287	土工に対する活用率
MG技術(バックホウ(3D))	17	705	2%			
MG技術(バックホウ(2D))	24	705	3%	1287	土工に対する活用率	
TS・GNSS締固め	85	705	12%	15%	1287	土工に対する活用率
TS出来形(舗装)	42	153	27%	5件以上/地整等	243	舗装工(路盤工)に対する活用率
その他	17	705	2%	-	1287	土工に対する活用率

活用率の推移(年度別)

	TS出来形	MC技術(モータグレーダ)
H20	3.2%	11.8%
H21	9.5%	12.1%
H22	22.2%	35.7%
H23	44.0%	46.3%
H24	65.3%	45.5%
H25	74%(64%)	57%

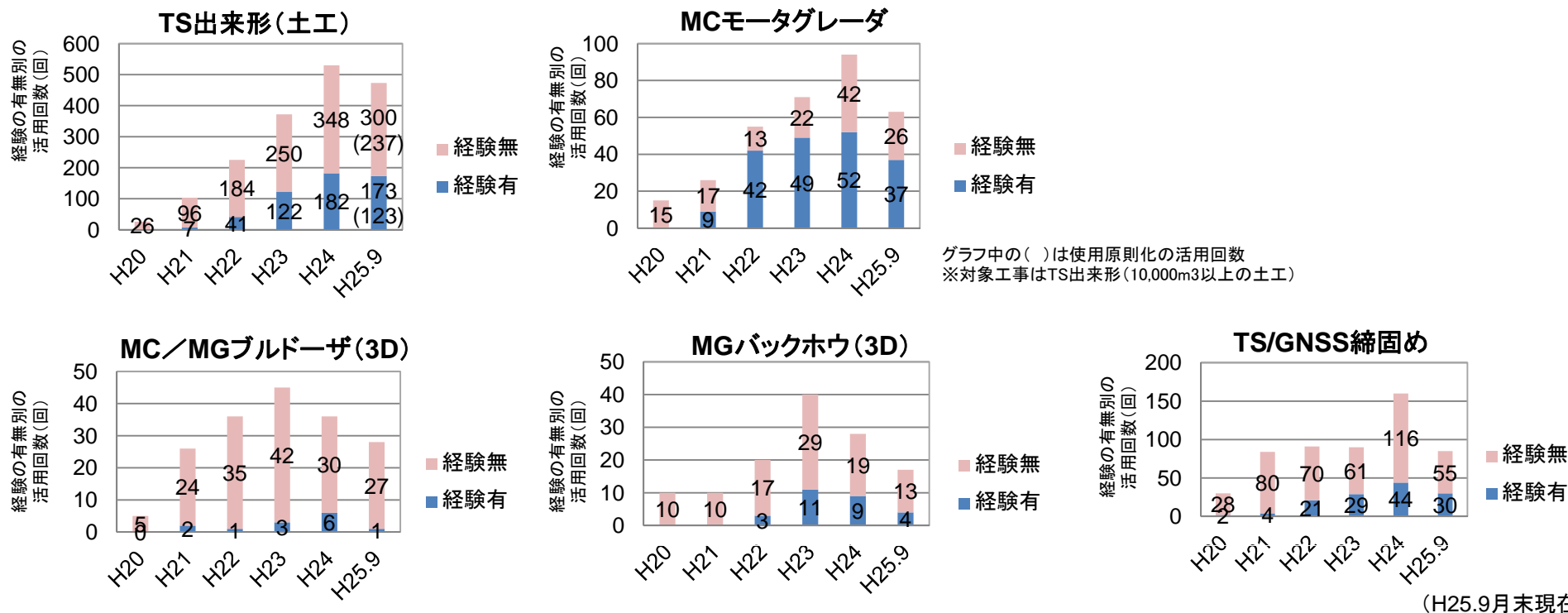
※グラフ中の()はTS出来形(10,000m³未満の土工)の活用率



情報化施工技術の活用率(情報化施工技術別)

1.8 施工者の実施経験の有無(技術別)

- 平成25年度の施工者の情報化施工実施経験をみると、TS出来形(土工)では実施経験のある者が約4割(473回のうち173回)を占めており、このうち、使用原則化となったTS出来形(10,000m³以上の土工)では実施経験のある者が約3割(360回のうち123回)となっている。
- MC技術(モータグレーダ)では実施経験のある者が約6割(63回のうち37回)を占めている。
- MC/MG技術(ブルドーザ(3D))では実施経験のある者が1件、MG技術(バックホウ(3D))では実施経験のある者が4件である。TS・GNSS締固めでは実施経験のある者が約5割(55回のうち30回)を占めている。
- MC/MG技術(ブルドーザ(3D))は情報化施工技術を初めて活用する施工者の割合が高い。



施工者の実施経験の有無(情報化施工技術別)